

平成 20 年度 陵墓関係調査報告

陵 墓 調 査 室

調査の概要

当調査室では、「周知の遺跡」やその可能性がある陵墓において、保全・整備のための土木工事などを実施するに際して、その施工区域・箇所における遺構・遺物の有無を確認し、工法の決定に資するため、事前調査・立会調査を実施している。平成20年度においても、各陵墓監区事務所や京都事務所などの関係機関、さらには地元教育委員会とも協力し、以下の区域・箇所において調査をおこなった。その概要を記すことしたい。

[事前調査] 1 件

1 百舌鳥陵墓参考地（大阪府堺市北区百舌鳥本町）墳丘裾護岸整備工事に伴う調査

古市監区、10～12月実施、担当：徳田誠志・清喜裕二・加藤一郎

本調査は、濠水の落水にあわせて、濠部分を管理する堺市と同時期に実施したものである。報告文は後掲する。

[立会調査] 24 件

2 明治天皇伏見桃山陵（京都市伏見区桃山町古城山）排水管敷設工事に伴う調査

桃山監区、8・9月実施、担当：高橋秀明・西村悦二

桃山陵墓監区事務所の南側は崖となっており、崖下に向けて排水路がある。今回、新規の接続枠と排水管を接続するとともに、崖下に新たに流水処理枠を取り設けることとなり、そのための掘削・埋め戻しに立ち会った。いずれも既設管・枠埋設時に埋め戻された土層であり、近現代の陶磁器 3 点・瓦片 21 点が含まれていた。伏見城に関すると思われる遺構・遺物は出土しなかった。

3 鳥羽天皇安樂寿院陵（京都市伏見区竹田内畠町）長押塀改築その他工事に伴う調査

桃山監区、10・11・1月実施、担当：佐々木靖秋・舛吉悠也

鳥羽天皇陵の四周を囲む長押塀改築を改築することとなり、その控え柱（28箇所）の埋設替え工事に伴う掘削・埋め戻しに立ち会った。掘削は最深で約80cmおこなった。そのほとんどは拳大の礫混じりの茶褐色粘質土であり、既存控え柱基礎堀の際の埋め戻し土と考えられた。出土品としては、礫に混在して、瓦37片が認められた。そのほとんどは近世以降の焼瓦であったが、なかには、縄蓆文叩きや布目のあるものもあり、鳥羽離宮に関連するものと思われた。

4 嵐峨部事務所（長慶天皇嵯峨東陵：京都市右京区嵯峨天竜寺角倉町）改築工事に伴う調査

桃山監区、12月実施、担当：有馬伸・森下利光・今井隆太朗・高濱繁伸

報告文は後掲する。

5 繼体天皇三嶋藍野陵（大阪府茨木市太田三丁目）鳥居改築工事に伴う調査

桃山監区、1月実施、担当：坂部泰生・坂本博史

鳥居の基礎の掘削・埋め戻しに立ち会ったが、在来鳥居の基礎工事の際に埋め戻されたものであり、遺構・遺物は検出されなかった。

6 弘文天皇長等山前陵（滋賀県大津市御陵町）水路改修その他工事に伴う調査

月輪監区、9月実施、担当：田端勝一・高野嘉樹

拝所の北側を東西に走る水路改修その他工事に伴う掘削に立ち会った。それらのうち、水路底改修箇所については、掘削深度は石積下端まで到達していない。水路構築以前の土層は確認されなかった。ま

た、最深で約0.9m掘削した溜枡埋設箇所では、最下層が採石と考えられる白色の小礫で占められることがから、掘削範囲の土層は水路底の整地層と考えられた。遺構・遺物は確認されなかった。

7 孝明天皇後月輪東山陵（京都市東山区今熊野泉山町 泉涌寺内）第一鳥居改築工事に伴う調査

月輪監区、12・1月実施、担当：田端勝一・松村一成

孝明天皇陵に三基ある鳥居のうち、拝所から一番奥にある第一鳥居の基礎（2箇所）の掘削・埋め戻しに立ち会った。大小の礫が多く含まれていることなどにより、既設鳥居を建立した際の工事の埋め戻し土である可能性が高いように思われた。遺構・遺物は認められなかった。

8 泉山陵墓地（京都市東山区今熊野泉山町ほか）外構柵整備工事に伴う調査

月輪監区、1月実施、担当：山本昌弘・長濱匡洋

工区は三箇所に分かれる。第1工区は東北部の府道勧修寺今熊野線および消防道路沿いの延べ291.77m、第2工区は東山テニスクラブに隣接する延べ211.36m、また、第3工区は西部の府立日吉ヶ丘高校に隣接した延べ14.78mである。最深で約0.7m掘削した。土層はそれぞれ第1工区は在来コンクリート柵設置時の埋め戻し土、第2・第3工区は地山などと考えられた。遺構・遺物は確認されなかった。

9 村上天皇皇后安子火葬塚（京都市左京区吉田泉殿町）長押塚等修繕工事に伴う調査

月輪監区、2月実施、担当：米谷有朋・寺岡慎太郎

土塚修繕と屋根瓦改修が主な工事であったが、門扉脇の陵名石標の据え直しをおこなうこととなり、その掘削・埋め戻しに立ち会った。葛石の下を約70cm掘削したが、その土層は長押塚設置（昭和52年施工）に伴う盛土か埋め戻し土と考えられた。遺構・遺物は検出されなかった。

10 一條天皇・三条天皇火葬塚（京都市北区衣笠鏡石町）参道整備工事に伴う調査

月輪監区、2月実施、担当：高野嘉樹・堀井 清

参道を明色アスファルト舗装にするための基礎掘（最深で約20cm）に立ち会った。基本的に黒褐色粘質土の表土と黄褐色砂質土の盛土という2層からなっており、遺構・遺物は認められなかった。

11 倭彦命身狭桃花鳥坂墓（奈良県橿原市北越智町・鳥屋町）鳥屋配水管埋設工事に伴う調査

畠傍監区、8月実施、担当：平木和史・三井朋宏

橿原市水道局発注の工事であるが、一時使用中の陵墓地内の参道敷地を横断する水道管を埋設（深さ0.8m）することになり、その掘削等に立ち会った。当該地は埋蔵文化財包蔵地には含まれていない。現地表面下0.5mで埋め殺された旧参道石積みを検出した。掘削範囲は道路造成土内にとどまった。遺構・遺物は検出されなかった。

12 開化天皇春日率川坂上陵（奈良市油阪町）鳥居改築工事に伴う調査

畠傍監区、12～2月実施、担当：有馬 伸・瀬尾義弘・徳永真明・北村 豊
報告文は後掲。

13 飯豊天皇埴口丘陵（奈良県葛城市北花内）鳥居改築工事に伴う調査

畠傍監区、12・1月実施、担当：本多 均・森岡正則・上原孝浩・古河稔也

鳥居の基礎（深さ1.3m）の掘削・埋め戻しに立ち会った。既設基礎は今回の掘方内におさまっていた。それ以外では現地表面下1mまでは拝所の造成土であり、それ以下は灰色粘質土となっており、濠内の埋土と考えられた。遺構・遺物は確認されなかった。

14 孝安天皇玉手丘陵（奈良県御所市玉手）防災整備工事に伴う調査

畠傍監区、1・2月実施、担当：古河稔也・上原孝浩・本田 均・森岡正則

孝安天皇陵は自然地形を利用した丘陵に、盾状に石柵をめぐらせ、その中に円丘の墳壘部がある。境界線沿いは崖状となっているところも多く、今回、防災工事として二箇所の自然斜面補強（北部と北西部）、および参道入口部の石積擁壁取設をおこなったものである。自然斜面補強箇所では岩盤が露呈しており、また石積擁壁取設箇所では表土下は地山であった。遺物も出土しなかった。

- 15 安康天皇首原伏見西陵（奈良県奈良市宝来四丁目）鳥居改築工事に伴う調査
　　畠傍監区、3月実施、担当：奥野 肇・堂園雅章・松岡義泰・濱本厚志
　　掘削・埋め戻し（深さ約1.5m）がおこなわれる部分について立ち会った。現地表面下0.6～0.7m以下は地山で、それより上位は拝所の造成土と思われた。造成土中（深さ約0.2m）から近世の燻平瓦1点が出土した。
- 16 神武天皇畠傍山東北陵（奈良県橿原市大久保町）参道入口人止柵改修工事に伴う調査
　　畠傍監区、3月実施、担当：三井朋宏・古谷拓也・平木和史
　　参道入口部の人止柵改修工事に伴い掘削される箇所（最深で0.4m）について立ち会ったが、過去における掘削範囲内での掘削にとどまった。遺構・遺物は検出されなかった。
- 17 仁徳天皇百舌鳥耳原中陵（大阪府堺市堺区大仙町）第5渡土堤侵入防止柵改修その他工事に伴う調査
　　古市監区、7月実施、担当：小走直敬・笛尾佳裕・桐山洋介
　　第5渡土堤侵入防止柵改修は鉄扉の修繕で、掘削を伴わなかつたが、拝所前面の車回し広場入り口の立看板を設置する二箇所において、約0.3m掘削することとなり、立ち会つた。掘削範囲内では上からアスファルトと砂利の2層のみであった。これらは駐車場整備時のものであり、地山や遺構は確認されなかつた。
- 18 反正天皇百舌鳥耳原北陵（大阪府堺市堺区北三国ヶ丘町二丁）拝所延石据直し工事に伴う調査
　　古市監区、9月実施、担当：桐山洋介・笛尾佳裕
　　拝所内の延石据直し（陵名石標の前面付近）に伴う掘削（深さ約0.2m）・埋め戻しに立ち会つた。掘削は拝所造営時の盛土内にとどまり、遺構・遺物は認められなかつた。
- 19 履中天皇百舌鳥耳原南陵（大阪府堺市堺区石津ヶ丘）外構柵改修工事に伴う調査
　　古市監区、1月実施、担当：加藤一郎・桐山洋介・笛尾佳裕・小走直敬
　　報告文は後掲する。
- 20 大塚陵墓参考地（大阪府羽曳野市南恵我之荘七丁目・松原市西大塚一丁目）渡土堤整備その他工事に伴う調査
　　古市監区、12・1月実施、担当：清喜裕二・加藤一郎・浅井良寛・濱田武典
　　報告文は後掲。
- 21 清寧天皇河内坂門原陵（大阪府羽曳野市西浦六丁目）鳥居改築工事に伴う調査
　　古市監区、12・2月実施、担当：近藤時男・須藤周太・富賀 稔・宮田一弘
　　約1.5m掘削する鳥居基礎部の掘削・埋め戻し時に立ち会つた。基本的な層序はおおむね上から表土、搅乱土層（旧耕作土か）、地山となっている。これらは壁面の状況であり、調査区中央付近では旧鳥居施工時の掘削により搅乱された状況であった。とくに遺構・遺物は確認できなかつた。
- 22 雄略天皇丹比高鷲原陵（大阪府羽曳野市島泉八丁目）外構柵改修工事に伴う調査
　　古市監区、1・2月実施、担当：浅井良寛・濱田武典
　　雄略天皇陵の円丘部は濠に囲まれているが、その東端部の外構柵を改修することになり、その掘削・埋め戻し時に立ち会つた。最大で約0.5m掘削したが、掘削は表土と近年の盛土内におさまっており、遺構・遺物は認められなかつた。
- 23 応神天皇恵我藻伏崗陵飛地い号（大阪府羽曳野市誉田六丁目）フェンス扉改修工事に伴う調査
　　古市監区、2月実施、担当：近藤時男・須藤周太・富賀 稔
　　飛地い号（東馬塚）の東南隅付近にあるフェンス扉改修に伴い、2箇所（深さ約0.5m）の掘削・埋め戻しに立ち会つた。基本層序は上から表土、砂利混じりの層（盛土か）のみであり、遺構や遺物は確認できなかつた。
- 24 反正天皇百舌鳥耳原北陵（大阪府堺市堺区北三国ヶ丘町二丁）鳥居改築工事に伴う調査
　　古市監区、2・3月実施、担当：桐山洋介・小走直敬・笛尾佳裕・中辻 武

鳥居基礎の掘削・埋め戻しに立ち会った（深さ約1.5m）。掘削箇所は表土下に、暗灰色粘質土（拝所整備時の盛土）、黄土色砂質土となっており、遺構や遺物は検出されなかった。黄土色砂質土は地表下約1mで検出された。周辺を調査した堺市のデータなどを参考にすれば、この層が地山と考えられる。

25 雄略天皇丹比高鷲原陵（大阪府羽曳野市島泉八丁目）参道土留改修工事に伴う調査

古市監区、3月実施、担当：浅井良寛・濱田武典

参道の土留の改修の掘削・埋め戻し時に立ち会った。掘削深度は約15cmで、基本的な土層は表土下は参道整備時の盛土、旧参道の砂利層となっていた。遺構や遺物は検出されなかった。

また、平成20年度には以下のような調査も実施した。

[墳丘調査] 1件

26 大吉備津彦命墓（岡山市北区尾上・吉備津）

桃山監区、2月実施、担当：清喜裕二・有馬伸・高橋秀明・篠崎秀雄・坂田富司

周辺部を含む地形測量（墳丘部は縮尺1/100、周辺部は縮尺1/200、25cm等高線）を実施した。その詳細は、別掲「大吉備津彦命墓の墳丘外形調査報告」に収録する。

[文献調査] 3件

2月実施、担当：北條朝彦

27 安樂寿院（京都府伏見区竹田）

『安樂寿院原要記』・『安樂寿院来由記』・『安樂寿院略縁起』等が保管されている。いずれも陵墓課で写本を保管しており、その校閲を実施した。

28 大和文華館（奈良市学園南一丁目）

陵墓課では『安樂寿院原要記』の写本を保管している。その校閲のため、大和文華館所蔵本の調査をおこなった。

29 奈良県立図書情報館（奈良市大安寺西1丁目）

「幕末の修陵」にも関わった奈良奉行所の筆頭与力の中條良蔵（寛政12年～明治元年。諱は正言、号は芳溪）の手記などの文書群、いわゆる「中條家文書」の調査をおこなった。

[所蔵出土品関係資料調査] 1件

30 京都大学総合博物館（京都市左京区吉田本町）

3月実施、担当：清喜裕二・加藤一郎

雲部陵墓参考地などの出土品の調査をおこなった。

(福尾正彦)